

笛吹市都市計画審議会運営規程第 11 条の規定により次のとおり会議録を作成する。

1 開催日時 平成 29 年 3 月 13 日（月）14：00～16：00

2 会 場 笛吹市役所本館 302 会議室

3 出席委員の氏名（敬称略）

◇都市計画審議委員

池田聖仁、若杉成剛、保坂利定、河阪昌則、佐藤昭夫（代理：横田真次長）、土屋重文、
佐野正秀、山下安廣

◇事務局

〈まちづくり整備課〉

河野部長、神宮寺課長、飯島リーダー、鶴田主任

（説明者）太田リーダー、浅川主事

◇欠席委員 赤岡勝廣、大山 勲

◇傍聴者 0 名

4 次第及び議事

1 開 会

2 委嘱状交付式

3 市長挨拶

4 会長選出

5 会長挨拶

6 議事

議事録署名委員の指名 若杉委員、河阪委員

審議事項

○ 石和温泉駅周辺整備事業の事後評価について

○ その他

7 閉 会

5 議 事 録 別紙会議録による

【会議録】

1. 開会 笛吹市都市計画審議会委員委嘱式及び審議会を開催させていただきます。
委嘱式をはじめます前に、相互に あいさつを交わしたいと思いますので、恐れ入りますが ご起立ください。
2. 委嘱状交付 市長より委嘱状の交付
3. 市長挨拶
4. 会長選出
(事務局)
 - ・事務局案を提示(委員)
 - ・事務局一任の声(事務局)
 - ・それでは、事務局案としては、これまでの経歴等を考慮した中で、池田委員にご依頼したいと考えています。(委員)
 - ・異議なしの声(委員)
 - ・了承(事務局)
 - ・配布資料確認 「次第、条例、規定、委員名簿のセット」、「石和温泉駅周辺地区再生整備計画事後評価資料」「事後評価シート(原案)」
5. 会長挨拶
6. 議事
(会長)
 - ・笛吹市都市計画審議会運営規程第 11 条第 2 項に基づき、本日の議事録署名委員の指名 河阪委員、若杉委員
 - ・異議なし、了承の声(事務局)

～石和温泉駅周辺整備事業の概要及び事後評価結果について説明(約 25 分間)～

石和温泉駅周辺地区都市再生整備計画事後評価について、審議して頂く事項は、大きく分けて 2 つお願いしたい。

(委員)
 - ・まず 1 つめの「事後評価手続き等に関する審議」ということでいいのか。(事務局)
 - ・まず、事後評価の手続きについて審議をして頂く。(委員)
 - ・今回の事後評価に関して、委託しているコンサルタントがあれば教えてもらいたい。
 - ・また、業務範囲はどのようになっているのか教えてもらいたい。(事務局)
 - ・支援業務として調査やシートの作成をコンサルタントに委託している。(委員)
 - ・その会社は、笛吹市のことをよく認識している会社か。(事務局)
 - ・市内の業者に委託している。(委員)
 - ・持続的なまちづくり体制を構築していく上で、何点かお聞きしたい。

- ・ 1 点目として、笛吹市としてのコンパクトシティを考える上で、観光や農業など笛吹市として売りにしているものがいくつもあるが、そういった部分もこの事後評価に絡めて評価する必要はないのか。

- ・ 2 点目として、トレイルランなどのイベントをやっているようであるが、マスメディアの活用方法はどのようになっていたのか、もしわかれれば教えて頂きたい。

- ・ 最後に、北口の利用状況について、当初の数字が推計値で、目標に達していないとのことであるが、北口と南口の特化ということを考える必要があると思う。北口が南口のように稼働率が上がればいいということではないと思う。大蔵経寺山などの北側の資源と北口をどう結びつけるかという部分で、北口を特化していくための事業が必要だったのではないかと考えたことを、もう少し深く検証した方がいいのではないかなと思う。

(事務局)

- ・ コンパクトシティと観光・農業について、石和温泉駅の位置づけとしては、市への鉄道の玄関口となっている。そういった中で石和温泉駅は、交通の結節に関して中心となる玄関口になっているので、そこを中心に考えていく必要があると思います。

- ・ 観光という面でも、駅を利用する方に市内を周遊して頂けるようなまちづくりを目指していく必要があるのではないかと考えている。

(委員)

- ・ 他の自治体の例を見ても、強いコンセプトが何かないと、住民がこぞってそういう意識を持ってやっていくという流れに、なかなかない。

- ・ 特に笛吹市では、観光と農業が色々な面で重要である。

- ・ 観光や農業をうまく取り入れたコンパクトシティの考え方といった、新しい視点が出てくると、楽しいまちづくりができるのではないかなと思う。

(会長)

- ・ 今頂いたご意見については、「その他」の項目の中に整理して頂くということにしたい。

(委員)

- ・ 数値目標は、この事業の効果を測る数字だと思うが、例えば「石和温泉駅の乗車人員」について、平成 21 年度から現在までの間に、観光客の入込客数が相当増えていると思うが、そういった部分は調整を図った上で事業効果としてこの数字を取り上げているのか。そうでないと、過大評価になってしまうのではないかな。

- ・ 逆に「世帯数増加率」を見ると、人口減少が進み県全体としては世帯数が減少している中で、2.8%増えたということは、すごい事だと思うが、それが「△」と評価されてしまうのが正しいのかどうかということがある。

- ・ そういったことを考慮した数字となっているか、教えてもらいたい。

(事務局)

- ・ 今回は、単純に乗車人数が増加し、駅の利用者が増加したという部分を評価している。石和温泉の宿泊客数や観光客の入込客数が増加傾向であるということは、庁内検討会議等で観光部局と調整をする中で把握しているが、観光客の増減は、駅自体の問題ではない部分もあると思う。

- ・ 今回、駅のバリアフリー化をして、車いすでも駅が利用できる形になっており、いままでホームに行けなかった障がい者の方が、利用できるようになり、利用者数の増加に繋がったと考えている。

- ・ 乗車人員の増加の要因として、観光客の増加もあるかもしれないが、利便性が向上したという面での評価も考えたいと思う。

- ・ どういったものを指標にするかという部分で、利便性が良くなれば利用者も増えるだろうということで、「石和温泉駅の乗車人員」を指標として採用しており、利便性の向上というものが、乗車人員の増加の要因の一つとしてあると思う。

・もう一点の駅北口の松本地区の世帯数の増加については、今回の評価は駅北口ができて半年後の数字であり、現状では駅北口の整備が世帯数の増加に影響しているかどうかは、はっきりとはわからない。

・目標としては、駅の近くに住みたいとか、駅の近くの方が利便性がいいということで、世帯数が増えてくるのではないかという予想だったが、この世帯数の数字は簡単には伸びていかないと思う。今後、もう少し時間をかけて、北口の利用を考えて駅北側に住もうということが出てくるのではないかと考えている。

・今回は思ったほどの数字は出ていないが、今後、北口が開発されれば当然数字は伸びていくと思う。

(委員)

・そういった分析も加えた上で評価してはどうかと思う。

・当然駅が整備されたことは、観光客の増加にもつながることになると思う。

・そういった部分を、もう少し分かり易く説明してもらえるといいと思う。

(委員)

・今後のまちづくり方策の「多様な地域資源を活用したまちづくりの推進」の中に、「駅周辺の水辺空間を活用したまちづくりを推進し、地域の魅力向上を図る。ミズベリング事業」という内容がある。これは、具体的にどういう内容か。

(事務局)

・現在、実際に実施しているものは、近津用水のイルミネーション等がある。

(委員)

・近津用水は今回の事業の区域に入っていないのではないか。ここで言っているのは、近津用水のことか。

(事務局)

・近津用水のイルミネーションも絡めて、駅前のイルミネーションも行っている。

(委員)

・違う事業も取り入れているということか。

(事務局)

・違う事業も絡める中で、今後も駅周辺を盛り上げていきたいという内容である。

(委員)

・もう少し具体的に記載してもらえればと思う。

(事務局)

・「事後評価手続き等に関する審議」については、妥当に進められたということで、評価委員会でご承認頂くということによろしいか。

(委員)

・異議なし

(事務局)

・大山委員は今回欠席ということで、事前に意見を伺っている。

・大山委員においては、現大学教授であり、補助金指針において、大学の先生の意見を取り入れることが方針付けられているので、ここで発表します。

(大山委員の意見発表)

(委員)

・今の意見が全てだと思う。それに対してどうするのかということ、今日この場で協議するのか。

(事務局)

・そこまでは予定していない。今後の課題として、努力していきたいと考えている。

(委員)

- ・課題だけ抽出すればいいのか。課題をどうしていくのかは検討しないのか。

(事務局)

- ・検討することは必要だが、今回はこの事後評価シートに関する審議をお願いしている。

(委員)

- ・先日の議会の委員会の中で、南口に比べ北口の利用率が低いという話題があった。
- ・今発表があった大山委員の意見にあったように、北口全体の開発や景観整備により、交流人口拡大、観光客の増加を図るということであるが、南口に比した北口の駐車場のあり方や、施設のあり方などについて、市民からのアンケート調査の結果などをどこかに載せる機会はないのか。

(委員)

- ・インターネットや広報でお知らせしても、特に駅北口に関して地域住民のアイデアや意見をなかなか吸い上げられない。
- ・この状態ではワークショップは実行できない。計画を立てて、実行して、今回事後評価を行い、次にアクションに移るのに、ワークショップは重要だと思う。
- ・地域住民、子ども、観光や商業の関係者などいろいろな人の意見を吸い上げる必要がある。
- ・事後評価を実施したので、ワークショップを立ち上げるための材料は、この事後評価結果から導き出さないともったいない気がする。

(委員)

- ・現実を見た時に、まちづくり整備課でも、これだけの会議を開くにあたっては、担当だけに任せるのではなく、部長、課長をはじめ、みんなで審議していると思う。
- ・南口については、駐車場が少ないということがはっきりとわかっている。
- ・南口には、6月に交番ができる。交番ができるが、前の通りからパトカーを入れたいといった時に、道がない。パトカーを停める場所がない。
- ・公共交通機関の利用といっても、どこにバスを入れるのか。
- ・抜本的に、まちづくり整備課全体で審議したものを、この会議に持ってきてもらえればと思う。
- ・南口にあったトイレに関して、建物をつぶすのが前提である。
- ・我々から見ると、交番をもう少し西側に配置した方がいいのではないかとあったことがあるが、市は何の意見も聞き入れない。決めたものは決めたものとして進めてしまう。
- ・南口に便所が一箇所しかない状況だが、あんな小さなトイレでまわる訳がない。
- ・交流人口を増やすのであれば、もう少し皆から意見を聞く必要がある。
- ・イオンに店が入っていて、客用駐車場分担金を払っていても、200 台くらい無断で停められてしまっている。
- ・イオンの駐車場があるから駅がもっているが、イオンの駐車場がなければどうなるのか。
- ・農協などとタイアップしながら、行政として駅前の駐車場を整備するといったことを考える必要がある。民間ができないことは、行政がしなければならない。
- ・そういうことをやってもらわなければ、石和の発展は絶対はない。
- ・笛吹市には中央線の駅が2つもあるということは、嬉しいことであるが、それに対して行政の気遣いが無い。
- ・これは、民間ができることではない。
- ・そういった内容も、ぜひ、事業評価の中に入れてもらい、次の計画につなげていってもらえればと思う。

(会長)

- ・暫時、休憩としたいと思うが、よろしいか。

(委員)

- ・生活をしている方が、今の駅でどういことを困っているのかを、聞き取り調査をする必要がある。
- ・北口もそうだが、駐車場はあるが高い有料の駐車場である。
- ・空き地を今のうちに確保しておくといったことが必要ではないか。
- ・北口の整備を市で進めてくると、北口がかなり活性化してくると思う。
- ・その時では手遅れになってしまう。
- ・今できるうちに駐車場を確保すれば、笛吹市の市民だけではなく、山梨市や甲府市の市民がそこに車を停めて通勤できるようになり、乗降客数を増やすことになる。
- ・駐車場さえ確保しておけば、乗降客数は増える。
- ・大山委員の意見のように、市には大量の資源がある。そういうものを売り物にして、北口はこうだということをPRして、北口を利用してもらうという方法もある。
- ・北口は何もないが、閑静でいいと思う。北口は景観がいいと思う。
- ・先日、市長、議長、そして商工会が入った中で、旅館のバスを北口に持っていけという話をして、既に実施をしている。
- ・だれも文句を言っていないので、多分全部北口に行くと思う。そうすると、南口が寂しくなってしまう気がする。バランスを取りながらやっていく必要がある。
- ・南口にワインサーバーがあるが、観光客が北口に降りてしまうと、間違いなく利用者が減ってくる。
- ・帰りにはそんなには時間が無く、酔っぱらって帰る訳にもいけないので、ワインサーバーの売り上げは落ちる。
- ・そういうことを考えると、車を停める場所が必要である。
- ・南口もそうだが、バスを停めるところもない、障がい者の車も停まらない、バリアフリーにもなっていないという状況である。健常者と障がい者が平等に一緒に暮らせるまちづくりをするべきだと思う。それが笛吹市の自慢になる。それをつくっていかないと全国から遅れてくる。
- ・駅前もだが、イスを置くと人が滞留してくる。人を留めたかったら、イスを置くといい。
- ・そういう簡単なことからやって、まちの中での滞留時間を作ることが必要である。
- ・そういうことをうまく利用して笛吹市の活性化を図っていく必要がある。
- ・お客さんが100万人近く来るとい状況なのに、別の地域にやっちゃっている。
- ・このうちの1割か2割でも、笛吹市の中で滞留してもらう時間を考えられればと思う。
- ・「笛吹市は本当にいいまち」だと思ってもらうのが、一番最初だと思う。
- ・イスがあれば座ってそこでものを食べる。そうすれば、ものが売れる。

(委員)

- ・先日、議会の建設経済常任委員会で、この問題について議論し、看板やイスの資料を市から委員会に提出してもらった。そうして、まだ議決はもらっていないが、平成29年度予算に計上されているので、その資料を出したらいいのではないか。

(事務局)

- ・休憩中に資料を用意しておきたいと思う。

(会長)

- ・休憩に入る前に、その他にご意見があれば伺いたいと思う。

(委員)

- ・先ほど話が合ったコンパクトシティについて意見を言わせてもらいたい。
- ・コンパクトシティというと、ある一定のエリアに都市空間があったり公園もあったりというイメージである。
- ・私は峡東農務事務所という県の立場もあるので言わせてもらおうと、峡東地域では、ワイン

リゾート構想というものをつくって、甲州市、山梨市、笛吹市の3市でこの地域を振興していこうという流れがある。

・それは、コンパクトというより大きなエリアで広域的に考えていく中で、それぞれ役割分担をしながら進めていくという内容である。

・石和温泉駅周辺の活性化や、石和温泉の活性化を考えた時に、先ほど観光農業という話があったが、モモ狩りやサクランボ狩りに来る方は、お子さん連れが多いので、あまり宿泊しない。そうするとどうしても大人の方が来て、ワインも飲んで泊まるという形になってくる。

・ワインを飲んでもらうのは甲州市にまかせてもいいので、そのお客さんをうまく石和温泉に引き込むということがある。

・コンパクトシティとは少し考え方が違ってくる。

・そういった部分については、どういう方向性を目指すのか考える必要がある。

(事務局)

・コンパクトシティという言葉が、いま出てきているが、現在、笛吹市でコンパクトシティのまちづくりを進めるような方策は特にはない。

・今回の事後評価の中で、コンパクトなまちづくりという言葉が出てきたのは、駅北口周辺の整備事業をやったおかげで、北口の地域の住環境が向上し、子育て支援センターなどの新たな機能が来たという部分の表現として使っている。

(委員)

・コンパクトシティという話がどこかに謳われているのかと思った。

・笛吹市として目指す方向なので、コンパクトシティづくりは、それでいいと思うが、もうひとつ広域的な視点も考えて欲しいということである。

(会長)

・それでは、15 分間休憩したいと思う。

(会議再開)

(会長)

・これまでのご意見等を事務局でまとめて頂いたので、事務局から報告をお願いしたい。

(事務局)

・まとめを発表。

・追加資料について発表。

(委員)

・アンケート調査結果は、今後どのように取り扱って活用していくことを考えているのか。

(事務局)

・アンケートは、概ねいい感触の意見を頂いているところであるが、中には駐車スペース等に関する要望も頂いている。

・利用者の生の声ということで、今後の検討の材料にしていきたいと考えている。

(会長)

・それでは、皆さんにお諮りしたいと思う。

・「評価委員会の審議」ということで、シートに意見の内容を整理してもらった。

・この内容でよろしいか。

(委員)

承認

(委員)

・災害への対応について、3 年前に大雪が降った時に、駅に大勢の人が集まってきた。

・そういった時に、無料で出てくるような自動販売機もあるようである。そういったものも設置しておいた方がいいような気がする。

(会長)

- ・ 事後評価シートとは別のご意見とする。
- ・ 課題等については、現在このような対応をしているということですので、ご理解をお願いしたい。
- ・ 議案の審議については、終了したいと思う。
- ・ その他事務局からあるか。
(事務局)
- ・ 特になし

7. 閉会

(事務局)

- ・ 本日の議事録は速やかに作成し、議事録署名委員である河阪委員、若杉委員にご署名を頂きたいと思う。
- ・ あくまでも要点をまとめたものになるが、よろしくをお願いしたい。
- ・ 本日の審議案件については、要旨をまとめて、市長あてに審議会長名で審議内容を報告させて頂く。
- ・ 長時間に渡りご審議を頂き、お礼申し上げます。これをもって閉会とさせて頂く。

(以上)

平成 29 年 月 日

議事録署名委員

㊟

議事録署名委員

㊟